

『点数』 作：ポチ子

人生に点数をつけなきゃいけないとして、

何点ぐらいがちょうどいいんだろう。

0点だからって死ななきゃいけないわけじゃないし、

100点だから長生きできるかといったら、

そういうわけでもない。

私が自分の人生に10点とか付けたら、

色々な人に怒られるかもしれない。

貴方は恵まれているじゃないか、

温かな家庭で育って、何不自由なく生きている。

周りにはもっと苦しい思いをしている人がいるのだから、

もっと高い点数をつけなさいって。

でも、そうしたら、

初めの点数が0点の人はどうしたらいいんだろう。

人は皆生まれた意味があるんだから、

0点なんてことはない。

皆同等に価値がある。

じゃあ、どの点数が正解なの？

優秀なあの人と私は同じ点数なの？

貴方と犯罪者も同じ点数なの？

考えれば考えるほど分からなくなる。

点数をつけようなんて思ってしまるのが愚かなのかもしれない。

でも、見えないけど、

人生には評価基準っていうのはあるような気がする。

皆、気にしていないようで、知らないようで、

お互いの点数を測ろうとしている。

— 終わり —